

平成30事業年度に係る業務実績の概要

1. 教育

- 全学横断特別教育プログラムの展開
 - ・平成30年度にグローバルコア人材養成コースを新設（教養科目を中心としたBasicコースに1年次生105名が登録）
 - ・環境分野の幅広い課題の基礎知識を身につけ、課題解決の考え方を学ぶ環境マインド実践人材養成コースを平成31年度から開講することを決定
- 「信州大学知の森基金」による経済支援
 - ・入学時に必要となる学資の一部を支援する「入学サポート奨学金」について、AO入試及び推薦入試Ⅰ・Ⅱの受験者を対象に追加した結果、支援者数、支援金額ともに増加（支援者数：14名→18名、支援金額：560万円→720万円）
- 障害学生に対する就職支援
 - ・就労移行支援事業所と連携して障害者雇用枠での就職支援体制の整備を進め、昨年度から継続してサポートを行ってきた卒業生1名について平成31年2月からの障害者雇用枠でのトライアル雇用が決定



環境マインド実践人材養成コースの概要

信州大学 知の森基金

信州大学 入学サポート奨学金

入学サポート奨学金

本奨学金制度は、平成31年4月に信州大学へ入学を希望する、卒業意向が明確な学生に対して、経済的困難により入学への進学を断念しないよう、入学時に必要となる学資の一部を支援として奨励することを目的として実施する。

1. 申請対象者
 - 申請年度から、次のいずれかで入学予定者
 - 信州大学附属高等学校（信州大学付属高等学校）を平成31年3月卒業見込みの者
 - 信州大学AO入試、推薦入試、一般入試（前期日程）に合格し入学予定者
 - 信州大学AO入試、推薦入試、一般入試（前期日程）に合格し入学予定者
 - 信州大学AO入試、推薦入試、一般入試（前期日程）に合格し入学予定者
2. 給付額 40万円（送金前）
 - 奨学金額 9.3万円 × 9.14（倍率）
 - 給付回数 4回（入学時、入学後1年、入学後2年、入学後3年）
3. 採用者数 20人程度
4. 申請方法 募集要項をホームページからダウンロードし、申請書と一緒に、信州大学 入学サポート奨学金事務局へ送付（募集要項を添付した返封封筒を返送）にて送付してください。
5. 審査方法 本学への入学希望、奨励状況、本学への貢献度などを総合的に審査する。
6. 申請書料 募集要項に記載のとおり、ご負担ください。

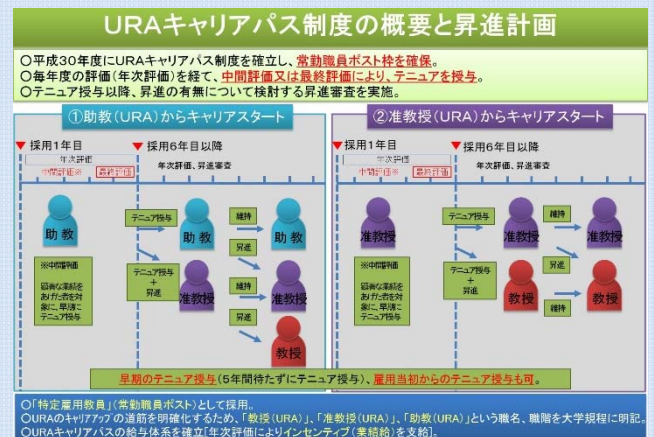
「信州大学知の森基金」による経済支援

2. 研究

- 卓越教授称号付与制度の新設
 - ・教育・研究において極めて顕著な業績を挙げる等、一定要件を満たした現職教授に対し、3年間「信州大学卓越教授」の称号を付与する制度を新設
 - ・平成31年1月1日付で6名の教員に称号を付与
- Rising Star教員の教授昇進
 - ・顕著な業績を上げたRising Star教員3名が教授へ昇進、また1名について平成31年4月1日付での教授昇進を決定
- 研究の質の向上
 - ・2018年版「アジアで最もイノベーティブな大学ランキング」で昨年度より高順位にランキング（アジア44位→40位、国内14位→13位）
- リサーチ・アドミニストレーターの処遇見直し
 - ・平成30年4月1日付で特定雇用教員に教授（URA）、准教授（URA）及び助教（URA）を新設
 - ・2年経過後の中間評価及び4年経過後の最終評価の結果によって、任期の定めのないURAへの異動が可能に

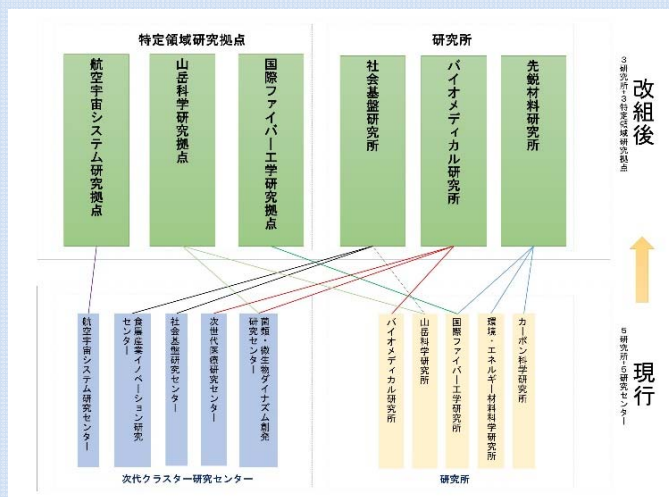


平成31年4月に認定された卓越教授（左側から手嶋教授、杉本教授、濱田学長、本郷教授、宇佐美教授、齋藤教授、中沢教授）



任期の定めのないURAへ異動するまでのキャリアパス

- 先鋭領域融合研究群の組織改編
 - ・戦略企画会議（改革会議）の下に先鋭領域融合研究群改組WTを立ち上げ、更に同WTの下に改組準備室として6つの作業部会を設置
 - ・平成30年12月19日開催の教育研究評議会において、平成31年4月1日付での第二期先鋭領域融合研究群の発足を決定
 - ・第二期先鋭領域融合研究群では、本学の先端的、革新的研究の牽引役となる研究所と、本学の強みと特色を活かした領域を延伸するための特定領域研究拠点の二つの枠組みを設定



先鋭領域融合研究群の組織改編

3. 社会貢献

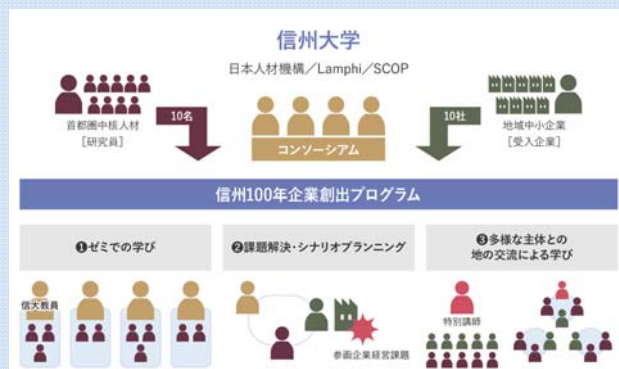
- 大学発ベンチャー支援の推進
 - ・「国立大学法人信州大学における大学発ベンチャーの認定に関する規程」を平成30年4月1日より施行し、10法人を第1回「信州大学発ベンチャー」に認定
 - ・本学のインキュベーション施設6施設のうち4施設が平成30年度末時点で入居率100%に到達
- 課題解決型人材の育成
 - ・多様で優秀な大学院博士課程人材を持続的に育成するため、「アドバンスド・リサーチ・アシスタント(ARA)」雇用制度を新設し、2名を採用
 - ・中小企業庁の平成30年度「地域中小企業人材確保支援等事業」に採択され、「信州100年企業創出プログラム」を実施。成長・拡大を志向する長野県内の中小企業に対し、本学が首都圏の人材を発掘しリカレント教育を行ってマッチングを図ることで、地域企業への定着を促進
 - ・観光庁の平成30年度「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」に採択され、障害の有無や年齢を問わず誰もが参加できるユニバーサルフィールドツアーに関する専門知識を有する人材の育成のためのユニバーサルフィールド・コンシェルジュ養成講座を開講し、14名の修了者を輩出
- 研究成果の事業化促進のための取組
 - ・試作や評価を行うことにより事業化の実現可能性を検証し、企業への技術移転や大学発ベンチャー創出を促進することを目的としてPOCファンド実施要項を策定し、同要項に基づき、選考の結果4件を採択し合計300万円を支援



第1回「信州大学発ベンチャー」の認定を受けた10法人の代表者と濱田学長



インキュベーション施設の一つであるオープンベンチャー・イノベーションセンター（OVIC）



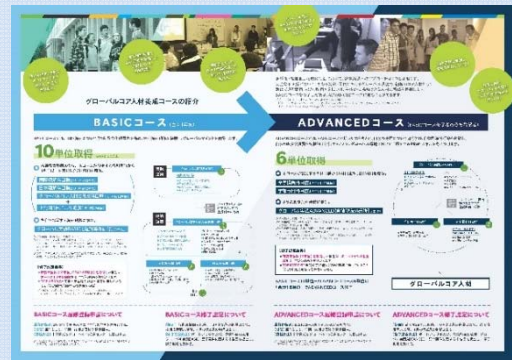
「信州100年企業創出プログラム」の概要



ユニバーサルフィールド・コンシェルジュ養成講座の様子

4. グローバル化

- グローバルコア人材養成コースの開講
 - ・全学横断特別教育プログラムとして、将来主に海外において組織のコア人材として様々な人たちと協働しながらタスクを着実かつ確実に遂行できる人物の養成を目的とするグローバルコア人材養成コースを新たに開講
- 海外派遣学生数の増加
 - ・平成28年度358名→平成29年度424名→平成30年度434名



開講したグローバルコア人材養成コース

5. 附属病院

- 「実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業」の展開
 - ・退院支援実習と訪問看護実習のどちらかを選択する相互体験実習と、がん看護、難病看護、重症心身障害児看護の中から2コースを選択する選択実習を実施
 - ・第2期生49名に対し修了証書を授与（第1期と合わせて100名が修了）
- 包括先進医療棟の稼働による病院機能強化
 - ・平成30年4月に包括先進医療棟の稼働開始
 - ・病床の増加や手術室の増室等により、がん診療機能、高度救命救急機能、周産期母子医療機能を強化
 - ・新設されたハイブリッド手術室での低侵襲性手術は7,300万円の収益を計上



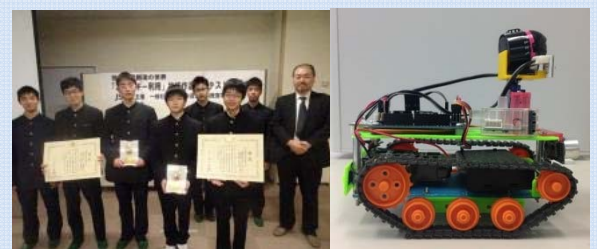
「実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業」の展開



新設されたハイブリッド手術室

6. 附属学校

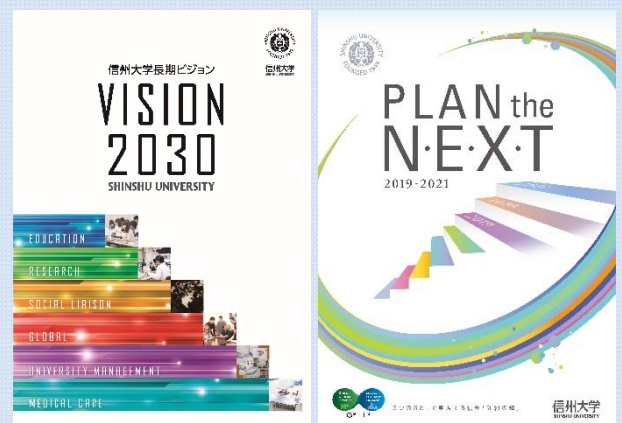
- ICTを活用した教育
 - ・平成31年1月開催の日本産業技術教育学会主催「エネルギー利用」技術作品コンテストにおいて、附属松本中学校の生徒4名が文部科学大臣賞を受賞



文部科学大臣賞を受賞した松本中学校の生徒と受賞作品のレスキューロボット

7. 業務運営等

- 「信州大学長期ビジョン -VISION2030-」の策定
 - ・2030年以降の社会システムの変化に対し、信州大学を運営していく方向性を示すものとして「信州大学長期ビジョン-VISION2030-」を策定
- 「PLAN the N・E・X・T2019-2021」の策定
 - ・第3期中期計画を確実に実施するために、第3期中期目標期間の後半に取り組むべき具体的施策として「PLAN the N・E・X・T2019-2021」を策定



信州大学長期ビジョン -VISION2030-、「PLAN the N・E・X・T2019-2021」

○経営企画能力を高める研修の実施

- ・平成28年10月に策定した「教員人材育成プラン」を踏まえ、学部長補佐以上の教員を対象に、6名の理事、副学長等を講師とした経営企画能力を高めるための研修を実施
- ・職員向けにも、経営企画能力を高める研修を、首都大学東京の理事を講師に「国立大学の未来と働き方改革」と題して開催（154名参加）

○寄附金獲得に向けた取組

- ・保護者向け及び法人向けの重点的な寄附依頼活動の継続に加え、卒業生に対しても新規の寄附依頼活動を行った結果、知の森基金への寄附金が前年度より600万円増加（約1,220万円→約1,780万円）

○信州大学公式WEBサイトのフルリニューアル

- ・スマートフォンでの閲覧への対応や、階層を浅くするためのWEBサイト内の情報のまとめ直し、ナビゲーション・ユーザーインターフェイスの改善等を実施
- ・WEBサイト全体で平成29年度実績を44%上回る3,708,803ページビューを記録

○環境負荷低減活動の展開

- ・環境マネジメントシステムに基づき、環境管理マニュアルの改定、「環境報告書2018」の作成、環境内部監査員養成講習会の実施等の環境負荷低減活動を実施
- ・インドネシア大学主宰の持続可能なキャンパス環境への取組を評価する世界大学ランキング「UI GreenMetric World University Rankings 2018」において、国内で1位、世界で48位を獲得

○大学史資料センターの活動

- ・本学の歴史資料を広く公開するため、企画展「信州大学今昔（いまむかし）」【後期】を開催し、ギャラリートークや知の森昼どきセミナー等の関連企画を実施
- ・卒業生から提供された986点の本学の歴史資料を収集・整理

○情報セキュリティに関する取組

- ・サイバー攻撃に関する情報交換や研究、技術支援、人材育成、広報啓発活動等での連携を目的として、長野県警察、長野高専、(株)ラックと「サイバーセキュリティに関する協定」を締結

担当講師	研修内容	参加者
副学長（国際交流担当）	国際交流について	76名
総合情報センター長	情報戦略、情報セキュリティ等について	51名
理事（病院、保健管理担当）	病院、保健管理等について	53名
副学長（企画総括／点検評価担当）	企画総括、点検評価等について	48名
副学長（広報担当）、副学長（学術情報担当）	広報戦略等について、学術情報等について	44名
理事（経営企画／財務／情報担当）	大学改革、財務戦略、IR等について	59名

教員を対象とした経営企画能力を高めるための研修の概要



リニューアルした信州大学公式WEBサイト



卒業生から提供された本学の歴史資料



サイバーセキュリティに関する協定の締結